

東中野駅開駅100年

我々が居住するこの町の中心地『東中野駅』が開駅して、今年がちょうど100年になります。

明治22年4月、甲武鉄道（私鉄）によって新宿と立川間に線が引かれましたが、東中野と言う駅はありませんでした。しかし日清、日露の両戦役後この地区の人口、また町の形態も大きく変わり、駅開設の必要性から明治39年6月6日、柏木駅と言う駅が当初出来ました。営業は同月14日、駅長1名、改札係2名、転轍手1名、駅夫2名で営業を開始したと記録されています。その後駅舎も現在地に移され、大正6年1月1日『東中野駅』と改称されました。

『東中野駅』に関しては本紙『今昔ものがたり』10号（平成11年12月）、11号（平成12年1月）、12号（平成12年2月）の3回にわたって記述しておりますので詳細は省略しますが、この地区の中心地として、交通の拠点として、この地域の発展に重要な役目を果たして来ました。

開業100年と言って特別な行事は無いようですが、記念のオレンジカードが発行され、シティテレビ中野でも駅長談話の放送が予定されています。

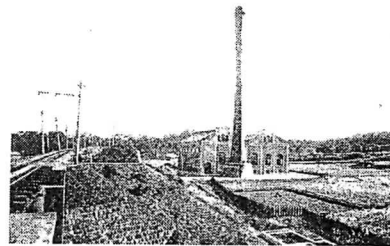


(記念のオレンジカード)

柏木火力発電所

いきなり『火力発電所』と言われても何のことやら、お分かりにならないと思います。今回はこの地区に当時としては立派な火力発電所があった事を紹介します。

この地区の発展に寄与したのは鉄道で、当初は汽車でしたが、東京都心の交通利用の増大に因るため効率のよい電車を採用する事になりました。そのため電気を供給する発電所の建設が必要となり、その場所として、鉄道沿線に近く、水の



(明治37年当時の発電所)

供給にも至便な柏木（北新宿3丁目）に明治37年その発電所が出来ました。

写真はその全景で、左側には単線のレール、ガードの下は神田川、そして高い煙突の下に煉瓦づくりの2棟の建物が耕地の中に悠然と建っている姿を想像して下さい。

しかし、この発電所は使用開始してから僅か14年、大正7年に廃止されました。その理由は①運転効率の悪さ、②明治39年国有化になったため他の発電所から電気の供給が可能になった、③煤煙や騒音などの環境問題など色々ありますが、『歴史的建造物』として残しておいたらな……とも思いました……。

※写真は、北原建築設計事務所の北原昭一氏提供によるものです。